

よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹、幼少の頃の愛称です。

論語から学ぼう

(記念館玄関東案内看板に掲示中)



《 第88号 》 (令和5年度第5号) 1月発行

新しい年を迎えました！
今年は辰年。龍にあやかり元気に
昇っていける年にしたいですね。

中江藤樹記念館の今後についてお知らせします！



藤樹書院蔵



論語「里仁第四之十五

吾が道は
一以て
これを一貫く

書

淵田瑞穂さん

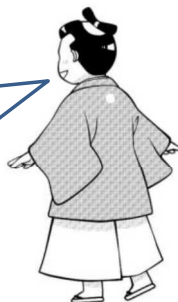
新しい年を迎えました。皆様にはますますお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。昨年も年間を通して本記念館にたくさんの方々が訪問くださいました。本当にありがとうございました。職員一同、感謝しております。

さて、既にご存じの方も多いと思いますが、本記念館は令和7年度の新施設としての開館に向けて、令和6年度中は閉館させていただく予定です。団体やグループ、ご家族等での見学ができなくなり、多くのご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

休館中に、大規模工事をして新施設へ改築する予定です。中江藤樹の遺墨や遺品とともに、現在、市内3資料館に展示・保存している文化財等も併せて展示する準備を進めていく予定です。休館前の閉館期間もあと3か月足らずとなってきました。積雪等で足元も悪くなりますが、しばらくご入館ができなくなりますので、是非ご来館いただき、中江藤樹の遺品や遺墨等にふれただけならと存じます。



しばしのお別れです。令和7年度に再びお会いできる日がくるのを楽しみにしています。
新しくなった記念館に是非お越しください。涙、涙



孔子が門人の曾子に「私の生き方は、ひとつの考え方で貫かれている。」と、言った言葉です。曾子はあとで、ひとつの考えとは何かと別の門人に聞かれて、「忠恕」だと答えています。

忠恕とは、真心をつくして相手の立場に立って思いやることで、孔子の生き方の指針となるものです。

孔子が言ったように、自分自身の誠実さと他人への思いやりを忘れないように、心がけたいものです。

その5 数え年

中江藤樹や記念館にまつわる豆知識のコーナー

私たちは毎年誕生日を迎えると、ひとつずつ年をとりますが、これとは別に「数え年」という年齢の数え方があります。

数え年では、生まれた年を1才と数えて、毎年お正月が来ると、ひとつずつ年をとって行きます。お正月に「年神」という神様が、一年の幸せと、一年を生きる命を授けに皆の家にやって来ると言われ、お正月にしめ縄や門松、鏡餅を飾る習慣は、この年神を迎えるためにも伝わります。

数え年の数え方は、古代の中国から始まったとされ、東アジアの各地域で使用されました。現在では誕生日を基にした満年齢が世界的な物差しになったため、風習や習慣として残るだけですが、お隣の韓国では、昨年6月に数え年制度が法律で廃止されるまで、長く一般的に使われていました。

日本では昭和の初め頃まで数え年が広く使われていたので、歴史博物館の展示などは数え年になっている場合があります。(中江藤樹記念館も数え年で説明しています。)



職員だより

今回は高島と糸についてのお話です。皆さんは服やタオルなどの布を織る糸には撚りがかかっていることを知っていましたか？

撚りとは糸をねじりあわせることです。

では、なぜ糸に撚りをかけるのでしょうか？

それは、撚りを施すことことで繊維が絡みあって糸に加わった力を分散し糸を強くしてくれるからです。

たとえば、かいこからとれる生糸です。繭から取り出した糸は細くて切れやすいので、何本かを束にし、撚りをかけて丈夫な一本の糸にして布を織ります。こうして撚りをかける回数を変えたり、太さの違う糸を数本撚りあわせたりすると肌ざわりや風合いが違う布を織ることが出来ます。

この糸に撚りをかけ、用途に適した糸に加工する撚糸工場が高島には数多くあり、高島は撚糸の産地として全国に広く知られています。

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330